あすりーと高岡

第25号

平成17年　新春武道稽古始め

スポーツで育む豊かな感性と想像力

(財)高岡市体育協会　副会長　多田慎一

この度、歴史と伝統ある（財）高岡市体育協会の副会長を仰せつかり、異常なまでの緊張と、大きな責任を感じております。

これまでスポーツ活動や、そのお世話に全く無縁だった私が三年前高岡市スポーツ少年団の本部長という思い掛けない大役を拝命し、子供達や指導者の方々の、スポーツに取り組む姿勢を観て、実に貴重な人生哲学を学びました。

企業経営に携わっている私にとりまして、日々情勢が変わる昨今、企業がいかにして、生き残り、企業を取り巻く様々なリスクにどう対応していくかが大きな課題であります。窮地に追い込まれて引き起こす、相次ぐ企業不祥事や事件・・・。企業にとっても、個人にとっても、今日ほど倫理や道徳が問われている時代はないかもしれません。なぜこのような事態になってしまったのか。この事態から立ち直るために、私たちに求められる事は何なのだろうか。私は前述の貴重な学びの中からスポーツの基本の第一は規則（ルール）があり、それを守ることです。規則を守る事は単にスポーツのみならず、人間社会においては当たり前の事です。無論競技中、故意、過失に拘わらず反則もあります。ルールを守る事はスポーツも民主主義の法治国家に於いては国民としても当然の義務であり、違法行為があれば罰せられるのは当たり前の事であります。基本の第二はリーダーの指示、命令に従うという事だと思います。監督の命令に従わないプレーヤーはスポーツをやる資格は無いと言わざるを得ない。又スポーツをする素晴らしさの第一に、勝つ喜びと負ける悔しさを味わう体験が出来る事であります。負けた時はその悔しさを糧として、次は絶対勝つという努力、練習をする事が尊いと思います。第二は心技体の鍛錬です。特に技は気、即ち気力（やる気、勇気）。人間、生きていくには相当な覚悟と気力が必要。とりわけ、苦しい時、辛い時をどうしのぐかであるが、やはり覚悟と気力で立ち向かうより他にない。第三の素晴らしさは良き友人を得れるという事。その中でも特にスポーツを通じて同じ釜の飯を食い、勝った喜び、負けた悔しさを味わって得た友人はお金で買えない貴重な財産です。一般的に十歳くらいまでの間に自我が育つといわれています。子供の時代（頃）に、勉学とともに自然体験や文化、スポーツなどの豊な体験をする事こそ必要且つ大切な事ではないでしょうか。もちろん中学、高校で倫理や道徳を教わるのも必要ですが、それだけでは感性は育たない。『生のあるところ競争あり』といわれていますが、生きていく力、壁を乗り越える力になり得るのは、その人が小さい頃から身につけてきた感受性や創造力、空想する力だと信じます。仕事や人生に於いて困難に遭遇した時、窮地に立った時、スポーツで鍛えた気力、体力は必ず、それらを撥ね除ける支えとなることは間違いないでしょう。そして必ずやこのスポーツ精神は、今日の各分野での日本の窮地を救ってくれるでしょう。

totoの収益は、身近に親しめるスポーツ環境の整備や競技力向上の事業に活かされます。

平成十六年度 体育功労者表彰式及び研修会

平成十六年十二月四日
会場　磯はなび

研修会に先だち午後3時から平成16年度第2回理事会が開催され、体育功労者（児童生徒全国大会上位入賞者）表彰、平成17年度事業計画の基本方針等が審議された。

表彰式は加盟団体の役員多数を中心とする列席者のもと、表彰状と記念品が荒井会長より一人一人に手渡され、受賞者を代表して、水泳競技の晒谷伊紀子さんよりお礼の言葉が述べられた。

引き続き行われた研修会では、昨年度までとは趣向を変えて「ジュニア選手育成事業の今後の見通し」のテーマで当協会のジュニア選手の指導者として活躍しておいでる、市柔道連盟教育部長の内河　健二氏、市レスリング協会事務局長の宮原　稔氏、当体育協会スポーツ専門員柳澤栄一が今までに取り組んできたこと、成果、課題等について発表した。

柔道連盟教育部長内河健二氏より、本年度で発足20年を迎えたスポーツ少年団の長年にわたる活動、底辺拡大を目指した親子柔道教室「健心会」の成功事例や今後の課題について発表いただいた。

続いて高岡市レスリング連盟事務局長宮原稔氏より、高岡ジュニアレスリングクラブ、宮原ジムを中心とした活動の紹介とジュニア選手育成強化の課題と指導理念について発表いただいた。

最後に、柳澤スポーツ専門員からジュニア選手育成強化事業の基本方針、目標と評価方法、これまでの成果と将来展望などが事例を交えて説明された。

質疑応答の時間も含め一時間三十分を予定していたが時間が足りず質問を制約しなければならないほど熱のこもった研修会となった。

平成十六年度 体育功労表彰者（児童・生徒）

〈レスリング競技〉
宮原　優　定塚小学校
登坂　絵莉　木津小学校
加藤　優弥　戸出西部小学校
越田　強太　戸出西部小学校
北　尚恵　西条小学校
大牧　功明　木津小学校

〈相撲競技・新相撲〉
四十九　遙　国吉小学校

〈水泳競技〉
関　亜喜奈　伏木小学校
江尻　賢人　南星中学校
橋田　祐里　志貴野中学校
晒谷伊紀子　富山商船高専学校

〈陸上競技〉
杉本　光　伏木中学校
米島　健太　富山商船高専学校

〈柔道競技〉
土倉　慶太　小杉高校

〈ソフトテニス競技〉
稲積京之介　高岡商業高校
上坂　幸広　高岡商業高校

〈フェンシング競技〉
林　秀武　富山西高校
高岡古城フェンシングクラブ
上野恵梨子　南星中学校
棚辺　麻波　牧野中学校
村田麻由美　伏木中学校

〈バドミントン競技〉
高岡西高校女子バドミントン部

スポーツアングル

最近はBSやCSなどの衛星放送やブロードバンドでのインターネットのおかげで世界中のさまざまなスポーツの映像を目にすることができるようになった。また身近なところでもキンボールやユニホックといったニュースポーツ、はたまた雪合戦やチャンバラといった子供の遊びを発展させたものまでスポーツとして地位を確立し、スポーツというものは実に多彩になったと実感させられる。

自分が運営に関わっているスポーツクラブでもソフトエアロビクスや太極拳といった軽スポーツ教室を開催することができた。多年代の人にスポーツを楽しんでもらおうとはじめたわけだが、参加された方々は生き生きとした表情で取り組んでおられた。そのとき太極拳のほんのさわりの動きをみようみまねでやってみた。しかし、まったくうまくいかない。太極拳独特のたおやかな動きについていけないのである。「力がはいっていますね。」講師の方から、一言で片付けられてしまった。

サッカーではボールを蹴る瞬間や相手にチャージする瞬間には、かなりの力を加えている。「あらん限りの力をいれること」「ひとつのことに集中して取り組むこと。」自分の中でのスポーツのイメージだった。多世代で多種目の取り組みを行う総合的なスポーツクラブが発展していくためにはいろいろな意味で「力をぬく」ことも重要でないのかとふと思った。

そんなことを考えながら、なぜか最近の小中高生のスポーツ活動の様子が頭をよぎっていった。

サッカー協会　飯田　融

スポーツ・アドバイス

スポーツ医科学委員
清　水　芳　隆

チームづくりのヒント（その1）

私は、保健体育を担当する教員として、氷見高校で女子バレーボール部を6年間、高岡女子高校（現高岡西高校）でバドミントン部を21年間指導し、その後、4年間校長として学校経営に携わってきました。このコラムでは、そうした経験を振り返りながら、チームづくり、選手づくりの基本的な考え方について述べたいと思います。ただし、全て私が実践できたわけでなく、数え切れない失敗の繰り返しから考え方を述べているものもあります。私をご存じの方は、「言行不一致」といわないで、「だからつまづいたのだな」と解釈していただければ有難いです。

スポーツの指導者は、一般的には個性が強く、思い込みが激しく、自分が一番の正統派だと考える傾向にあります（私もその一人でした）。指導者の生育環境、競技実績、指導歴、関わっている地域の競技水準の高さ、目指す目標などによって違いがありますので、一概にこのことは悪いとは言い切れないとしても、今の時代でこうした指導者が成功することは難しいでしょう。

ハーバードビジネススクール教授のジョン・P・コッター氏はその著書『企業変革力』の中で、企業変革のための連帯チームを作るに際して参画させてはいけない人材の一つの要素として、「きわめて大きなエゴ（自我意識）を示し、ほかの人たちがとても入り込む余地がないほどにエゴを発散する人材」を挙げています。しかし、この人が「自分の弱点や限界について明確に理解している」「ほかの人材に備わるすぐれた能力を認めている」場合は、影響は少ないとしています。

選手を育成する場合には、①身体面（体格・体力）②技術面（基礎・応用）③精神面（生き方・適正）④理論面（基礎・応用・戦術）⑤生活面（家庭環境）⑥スポーツ障害などについて学問的な基礎知識が必要です。経験論だけでは済まされないことが多くあります。さらに、チームをつくるには①練習環境②生活環境③人間関係④健康管理といった諸条件を整えるためのブレーンを作っていくことが必要です。一人のスーパーリーダーが全て取り仕切れる時代ではないと思います。

アテネオリンピックの金メダリストである水泳の北島康介選手を育て、「チーム北島」をつくったコーチの平井伯昌氏も、その著書『世界でただ一人の君へ』の中で、「できるだけたくさんの人で指導する」と述べています。

私は、日本一を目指して選手と毎日取り組んでいるときに、「この選手を育てるのが、もし自分でなくて四条畷学園の片岡先生、あるいは新潟青陵高校の佐藤先生だったらどうだったろうか」という疑問を、時折自分に投げかけていました。そして、「やはり自分が」という答えを出すために、誰にも負けないように、どんな小さいことでも疑問を持って創意工夫し、より高いレベルの相手を求めて、日本だけでなく中国や韓国のチームと交流し自分を高めるように努めました。

指導者は、「今年こそ、来年こそ」と繰り返すことができます。しかし、小・中・高生にとっては、1年限りの勝負、ともすれば一生一度のチャンスという場合が圧倒的に多いのです。指導者は経験を積み重ねていくうちに、この事実をいつの間にか忘れて、「今年はだめな年、来年は勝負のできる年」というふうに見通しをたててしまう傾向があり、練習にその雰囲気が出てしまうことがあります。

ある年、私は選手を全員逃亡・退部させてしまいました。今考えると、もう少しうまく選手の気持ちをコントロールできなかったかと反省しきりです。その年代の戦力は全国選抜大会のベスト8クラスだったと思います。ベスト4を狙うには、もう一段厳しく選手を追い込む必要がありました。私は、選手に耐える力があるか迷いもありましたが、ベスト8では我慢できないと考え、12月の期末考査終了からハードな練習に取り組みました。年末のある日、練習時間になっても選手は一人も体育館に姿を現さず、結局全員退部してしまいました。選手とのコミュニケーション、練習内容といろいろ反省すべき点はありました。当時、私へのアドバイスの多くは、「選手の能力が高くない場合には、それに見合った練習にすべきで、清水は完璧を求めすぎだ」という内容でした。私は、「選手の出来が悪い年ほど、あれこれ、じたばた工夫し頑張るべきだ。そうしないと下級生が育ってくる基礎部分に油断が入る」という考えでいました。完璧を求めて練習しなければ、「あの年でさえあれだけ頑張ったのだ。だから君らの年は・・・」というチームの考え方が成り立たなかったのです。

さて、皆さんはどのようにお考えでしょうか。

◉加盟団体紹介(36)
高岡市ビーチボール連盟

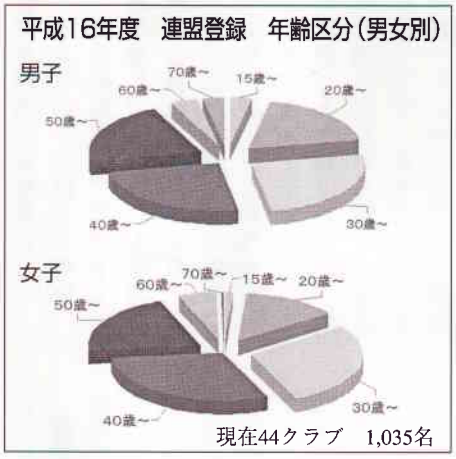
「いつでも・どこでも・だれでも」を合言葉に朝日町にて考案されたニュースポーツです。

当初県内体育指導委員を中心に高岡市では校下体育振興会、体育指導委員を母体とし広まりをみせ大会の開催を期に愛好者の集いが発足を見せ始めた。

昭和六十一年五月連盟設立を期に市内各校下より三十三クラブ八〇〇名の登録者を募り連盟の発足、その後、毎年クラブ数も増え平成五年最大ピーク時五十四クラブ一五〇〇名の会員数を要したがその後減少傾向をたどる、これも昨今のスポーツの多様化、当初の生涯スポーツから競技性への移行によると思われる、しかしここ五年間安定し一〇〇〇名を維持し若年層（二十代）の愛好者が急増し活気が出てきている。

平成三年十一月日本協会の設立いよいよ全国レベルの大会も可能、そして平成七年体育協会への加盟を果たし組織の基盤強化を図る。この時期二〇〇〇年国体開催の盛り上がりの中、国体種目には無理としてもせめて公開競技への希望を抱きながらの日々を送った。

また我々連盟事業としては春季、夏季、秋季、レディース、ビーチフェスタ、選手強化事業、審判育成事業、ビーチボール教室を主体事業とし「競技スポーツ」「生涯スポーツ」を目指す愛好者へのサポートを行いながら、市事業、県事業、日本協会事業への積極的な参画をしまだまだマイナーなスポーツではあるが近い将来体育協会への貢献も果たせると確信している。



平成16年度
土曜っ子スポーツチャレンジ

第1期「走る、とぶ、投げる運動」が5～7月（城光寺陸上競技場）。第2期「水にしたしむ運動」が8月～10月（長慶寺室内プール）。第3期「ボールと遊ぶ運動」は12月～2月（高岡市民体育館）にて実施されました。第3期の第2回には、文部科学省等の「子どもの体力向上キャンペーンの講師としてサッカー元日本代表の望月豊仁先生を迎え室内サッカーが行われました。

平成17年度
主要行事予定

5月21日(土)　平成17年度評議員会・体育功労者表彰式
6月25日(土)　第58回高岡市民総合体育大会総合開会式
7月2日(土)～3日(日)　第58回高岡市民総合体育大会基準日
7月30日(土)～8月1日(月)　第58回富山県民体育大会基準日

編集後記

昨年は国内外での自然災害、幼児虐待、殺人事件等など、殺伐とした年であった。今年は平穏な年であるよう願いたいが、市町村合併を皮切りに目まぐるしい年になりそうだ。

ところで、創刊号から続いていた「スポーツドクターアドバイス」コーナーを今号から、医科学委員会の委員の方から順次筆稿いただく「スポーツアドバイス」と改め、スタートすることになりました。